

第1回小郡市総合振興計画審議会 議事概要

日時：令和8年7月28日（火）15：00～

場所：小郡市役所 本館3階 大会議室

No.	委員氏名	所属団体・役職名等	備考
1	山口 寛	小郡市区長会	
2	組坂 眞一	小郡市商工会	
3	三宅 淳司	小郡市観光協会	代理
4	島田 昇二郎	小郡三井医師会	会長
5	森 勝則	社会福祉協議会	副会長
6	小川 絵美	小郡市保育協会	
7	百瀬 光子	おごおり女性協議会	
8	榎本 美佳	久留米大学 人間健康学部スポーツ医科学科	
9	佐島 顕子	福岡女学院大学 人文学部現代文学学科	欠席
10	天本 徳浩	崇城大学 総合教育センター	
11	中地 幸	公募委員	
12	古賀 夏子	公募委員	途中参加

	氏名	役職
事務局	熊丸 直樹	経営政策部長
	永利 由希	経営戦略課長
	佐藤 恵一	経営戦略課 政策推進グループ長
	古澤 望	経営戦略課 政策推進グループ 主事
	森 琉貴	経営戦略課 政策推進グループ 主事

【委託先事業者】株式会社地域創生 Co デザイン研究所

【配布資料】

- ・委員名簿
- ・資料①（１） 第6次小郡市総合振興計画後期基本計画策定基本方針
- ・資料①（２） 第6次小郡市総合振興計画後期基本計画策定基本方針・スケジュールについて
- ・資料② Well-Being 指標について
- ・資料③（１） 第6次小郡市総合振興計画前期基本計画検証結果報告 総括
- ・資料③（２） 第6次小郡市総合振興計画前期基本計画検証結果報告 明細
- ・資料④ 市民アンケート実施内容の共有
- ・小郡市総合振興計画審議会条例
- ・小郡市総合振興計画に関する規則

【次第】

1. 委員の委嘱
2. 市長あいさつ
3. 委員紹介【資料「委員名簿」】
4. 会長・副会長選出
5. 諮問
6. 議事
 - (1) 第6次小郡市総合振興計画
後期基本計画 策定基本方針、スケジュールについて【資料①】
 - (2) Well-Being について【資料②】
 - (3) 前期基本計画の検証について【資料③】
 - (4) 市民アンケート実施内容の共有【資料④】
 - (5) その他
7. 諸連絡
次回審議回の開催時期について

≪議事内容≫

6. 議事
 - (1) 第6次小郡市総合振興計画
後期基本計画 策定基本方針、スケジュールについて【資料①】
～審議会条例に沿って、事務局より説明～
～計画規則に沿って、事務局より説明～
～資料①（１）（２）に沿って、事務局より説明～

質疑なし
 - (2) Well-Being について【資料②】
～資料②に沿って、事務局より説明～

委 員：資料の文字が読みづらく、説明が頭に入りづらかった。アンケートについて、どれだけの人数にアンケートを取ったのか。

事務局：本日説明したものはデジタル庁が調査したものである。小郡市のアンケートについては、2,000人（無作為抽出）を対象に実施しており、現在集計中である。今後の審議会においては、資料を見やすい印刷をするよう工夫する。

委員：同色の背景に同色の文字は特に見づらいので工夫して頂きたい。また、Well-Being について、説明いただいた内容を理解しきれていないので、我々でも理解しやすいように工夫頂きたい。

事務局：Well-Being 指標について少し補足説明させていただく。地域とのつながりを例にとると、小郡市のレーダーチャートでは、主観指標は高いが客観指標は低い。この点について、地域の実態としては住民同士のつながりは強いと感じている。例えば、新しく住宅開発され多くの新住民が転入する地域では、コロナ禍で中止されていた夏祭りを、住民同士の交流機会を確保するために再開した事例がある。また、市が実施した調査では、自治会加入率が 80% を超えており、地域コミュニティの基盤は依然として維持されている。こうしたことから、客観指標では地域とのつながりが低く見える部分もあるが、実際には地域住民同士の交流や自治会活動が行われており、それらが市民の幸福度を支える要因の一つになっていると考えている。

委員：幸福度・生活満足度は主観か客観か、どのようなものなのか。

事務局：両方とも主観データである。例えば、幸福度については、アンケートの冒頭において「今あなたはどの程度幸せですか。」という問いがあり、0 点から 10 点までの間で回答していただいている。

委員：24 の因子についてはデジタル庁が決めているのか。

事務局：デジタル庁が決めており、全国統一のものである。

委員：都市環境分野には多様な要素が含まれており、項目数がやや多い印象を受ける。都市環境分野はハード面に関するものとの説明があったが、遊び場や公園、子育て環境、学校施設など、地域との関わりや教育に関する内容も含まれているため、都市環境の中でも性質の異なる項目が混在しているように感じる。また、都市環境分野をさらに細分化して整理できないか検討してほしい。

事務局：ご意見のとおり、一部説明が不十分であった。資料上の分類については、都市基盤に関する項目と、その他のソフト面に関する項目が含まれており、生活に必要な基盤的要素は主に都市基盤の区分に位置付けられている。また、本指標はデジタル庁が示している枠組みであるが、客観指標の取得方法や評価手法については継続的な見直しが行われている。加えて、今回のアンケートでは Well-Being 指標に関する標準設問だけでなく、事務局にて協議のうえ決定した独自設問も追加しており、自治体ごとの課題意識に応じた設計が可能である。

委員：レーダーチャートについても、24 項目を一度に表示すると全体像を把握しづらい。分野ごとの平均値を示した棒グラフなど、より分かりやすい見せ方も検討できるのではないか。

事務局：貴重なご意見として受け止めたい。現在の分類は24項目を分かりやすく整理するためにデジタル庁が設定しているものであるが、4つの大分類ごとに集約して分析する視点は有効であると考え。第2回会議でアンケート結果を報告する際には、分野ごとの傾向が把握しやすいよう、分析方法や資料の見せ方について工夫を検討したい。

(3) 前期基本計画の検証について【資料③】

～資料③（１）（２）、事務局より説明～

質疑なし

(4) 市民アンケート実施内容の共有【資料④】

～資料④、事務局より説明～

質疑なし

(5) その他

委員：初めて審議会に参加したため、分からないことが多かった。新しく参加する委員に対して、前もって情報共有いただくなど工夫を検討していただきたい。

事務局：資料を事前送付させていただいていたが、資料のみの送付となり、十分な説明を添えることができなかったため、内容の理解が難しかった面もあったと認識している。今後は、事前共有の方法や当日の説明について改善を図り、委員がより理解しやすい形で情報提供できるよう努めたい。

委員：データについて非常に興味深かったが、文字が小さく読めないのが残念であった。用紙を大きくするなど工夫を検討していただきたい。

事務局：今回の反省を踏まえ、次回の審議会ではより分かりやすい資料作成と説明に取り組むので、引き続き協力をお願いしたい。

-----議事終了-----